夢のストラップ

柚春

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
夢のストラップ

【Ｎコード】
Ｎ９８３０Ｇ

【作者名】
柚春

【あらすじ】
ある中学には須藤玲と木藤由がいる。そしてその二人はあるコンプレックスを抱えてるらしい。それは名前の読みが異性っぽい所。それを１番の悩みとしている。でもその共通のコンプレックス。ある意味気が合う二人は幼馴染である。そしてある日夜空の星と月のような形をした携帯ストラップを見つけた。あまりに可愛いストラップなので玲は拾った。けれども由に見つかった。そしてそのストラップの正体を暴くことに・・なってしまった。

第一話（前書き）

みなさんは夢をみたことはありますか？
怖い、楽しい、色々な夢をみたことはあると思います。
そんな夢のお話。

第一話

「おい！起きろってば！起きろ～！！」
「うへ！？呼んだぁ！？」
私は、須藤玲（すどうあきら）　中学二年生・・ふぁ～。
「おい！お前、のろのろしてる場合じゃないっつーの！」
アイツは、木藤由（きどうゆい）　私と同じ中学二年。
こんな私達。あるコンプレックスがあるの。
それはね・・・名前が異性っぽいところ！
これは本当にやだ！読み方は「れい」でいいのに～！
由もそう。「ゆう」がよかった。って溜息ついてたもん！

そう思うと由が、
「馬鹿っ！早くしろよ！！」
と叫ぶのだった。いつものようにのそのそと制服をとり・・・
「じゃあ、さっさと来い！下で待ってるから！」
とまたまた叫ぶ由！うるさーい！分かってるもん！！
はぁ～・・・。それにしてもなんで・・・なんで・・・あいつと幼馴染なんだろう。
なんで・・・あいつは・・・もう！
そういって私は机の上にあった冷めたパンを加え、
「ふっへへふぁ～す。」
と家を出て行った。
家の前で由は待っていた。
「おっせ～ぞ！のろまだなぁ。とにかく行くぞ！走れっ。」
無理だよ～。由は、陸上部の短距離走の選手だよ～？
そういってぶつぶつと私は呟きながら、５０ｍ走９．５６の遅い足で走った。

学校に着く頃には、みんな座っていた。
完璧、遅刻になってしまった。
みんなからの冷た～い視線を感じつつ、私は席に着いた。
由は、口を尖がらせ私をジロジロと見てから黒板を向いた。
顔で「ば～か。」って言っていたのは私は分かった。

授業が終わった。
数学って難しすぎる！あ～、もう。
「由～。ここ・・・。」
「きゃ～～！！！」
由に聞こうと思った瞬間、女子が集まった。
そう、由は学校の男子アイドル的存在なのだ！
「はぁ・・・。」
と溜息をしつつ、席へ戻った。
すると、
「どどどどどどどどどどどどー。」
ぽっちゃりした男子が私の周りを囲む。そしてこう問いかける。
「君のことを卵の黄身よか好きなんだな～。どうかな？付き合ってくれない？」
と少ーし低い声で言われる。
そう、私はデブに人気のある・・・まさにデブ人気の女子アイドル！？
もう・・・嫌。

私は溜息をしつつ学校から帰った。
新しく出来たアスファルトの道を歩いていたら・・・
星と月の形をした携帯ストラップが落ちていた。
「？。落し物かなぁ？それにしては可愛いストラップ♪」
辺りをキョロキョロ見回すと、そのストラップをポケットに入れた。

そしてまた歩き出すと、由(ゆい)が後ろが凄い勢いで走ってきた。
「う、うわぁぁ！？」
「おい！玲(あきら)～！」
「何よ！ついてこないで。」
「断る！」
「はぁ！？」
「だってここ俺の帰り道でもあるし。」
「あっそ。好きにすれば？」
そうして遅刻したとき睨んだ由のように私は口を尖らせていた。
「お？お前それ何？」
「え？これって・・・これ！？」
由は私のポケットの中に入っていたはず！？のストラップを指差した。
しまった～。歩いてたらストラップが・・・ポケットからはみでてた・・・。
少し黙ってから私が言った。
「お前なんかに教えないから。」
そういって走り去ろうとした。けれど由はついてきた。
「何よ！ついてこないでくれる？」
「だから！それはなんだよ！自分で買ったのか？それとも・・・。」
「それとも・・・？」
「あー！いい。とにかくなんだそれ！」
「・・・拾った。」
「はぁ！？きったねぇ！ばぁか！そんなもん拾ってくんなよ！玲のバーロ！」
「あんたには関係ないでしょ！由のバーカ！」
でも二人ともなにか気になっていた。
そして家の前に来たとき。由は言った。
「今日おまえんちいくかんな！あのストラップ気になるから。」
「勝手にすれば？」

そして同時にドアの閉まる音がなった。

第一話（後書き）

うーん、うまく書けないです・・・。
やっぱりものすご～く練習しないといけませんね・・・。

第二話（前書き）

ストラップを暴くことになったけど！？どうなっちゃうの！？？

第二話

そしてしばらくすると、ドアが開く音がなった。どうやら由(ゆい)が出てきたらしい。
「ピーンポーン。」
そして数秒の間にインターホンがなる。
「ガチャ。」
私は溜息をしながらドアを開けた。
「何か用？」
「はぁ？お前忘れたのかよ。行くっていったじゃん！」
「はぁー・・・。いいわ。入れば？」
「あ、おぉ。お邪魔しまーす。」
そしてドアは閉まった。
「うぉー！やっぱりお前んち広いな！」
「そ、そう？」
「俺んちの方が広いけどなー。」
「なっ！」
そんなやりとりをしながら二階の自分の部屋へ行った。
入ったとたんに由は私のベットへ座る。
「で、例のあれは？ストラップ。」
「分かってるってば！今持ってくるからっ。」
私は少しきれながらも1階のリビンクに置いてあったストラップをとってきた。
「はい。」
「さんきゅー。」
その後、由はストラップを触ったり、強く握ったり、軽く叩いたりしたが何も起こらない。
「・・・やっぱりただのストラップかぁ。」
「・・・・・まぁ、予想はついてたけどね。」

私にちょっとムカついたのか由は少し口を尖らせていた。
丁度そのときだった。ストラップの星が「ピカーッ」と光り始めた。
「うわぁ！？これなんだよっ！」
「し、知らないわよ！な、何よこれ！？」
「お、俺に聞くな～！」
わずか数秒でそこは見たことの無い世界になっていた。

第二話（後書き）

次回、光出したストラップの世界へ！

第三話（前書き）

光りだした世界は一体何処なの！？

第三話

数秒でそこは見たことのない世界になっていた。

「ねぇ、もっかい聞いていい？ここどこ～？」

「だから知らねぇって言ってんだろ！」

空は、星がダイヤの様に光り輝き、昼だったはずが夜になっているのだ。

見たことのないような森の中で、由と空を見上げてる。なんて能天気だ・・・。

「ん～、これからどうする？」

「知るか！大体おめぇが…」

「違うでしょ！由が気になるから調べたんだから由のせい！！」

「はぁ？フザけんじゃねええ！！」

ふと懐かしく思った。このやり取りは以前やっていたなぁって。

んまぁ、そんなこと言ってる場合じゃないんだけど…。

「あー、夜はな、な、な？ちょっと疲れたし、寝ようぜ～。」

「とか言って～。本当は怖いくせに。」

「はぁ？そんなに俺はおこちゃまじゃねえええよ！おめぇは、おばさんじゃねえのか？」

「はあああ！！ちょっとフザけてんじゃないわよっ！もういいわ、おやすみ！」

目を閉じると・・・

白い綿毛がふわりととぶ。気がつくと私と由が土手に座って話してる。楽しそうに。

そしてふわりと・・・

それで、目が覚めた。

これには何かヒントがあるんじゃないかと思う。

うつ伏せのまま横を見ると由が座っている。
「わぁ！」
「わぁ！じゃねーよ、ねぼすけ！！お前はしょうもねえなぁ～。」
「うるさい！もういいじゃない、いくんでしょ・・・えーと探検に！」
「あ、ああ・・・まあな、さ、行くか。」
「え！？もう？ま、いいけど・・・。」
起きたばかりの顔で由の後姿を見る。
（本当は格好良いのに。）
とか思って、むっと睨んでやった。

どんどん、歩いていくと…洞窟だったり…落とし穴だったり・・・動物だったりしたけど、出口が見つからない。
「あ～無理だな。」
「う、うん、そうかもね。」
「ん～、俺たちどうなるんだろうな。」
「さあ？飢え死にとか？？」
「バッカ！何言ってんだよ！さあ、歩くぞ。」
休憩しようかと思っていた足を動かすのは疲れるものだ。ため息を吐くと光が差し込んできた。
眩しさで前が見えない。
「眩しッ！」
「なんだよ・・・これ！明るすぎねぇか？」
『うわぁぁぁ！！！』
目に見えたのは、街だった。

第三話（後書き）

文章力なくてすみません。
恋愛＋ファンタジーな世界を次回もお楽しみ下さい。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9830g/

夢のストラップ

2010年12月10日17時40分発行